



◆生育状況について

果実肥大は、生育が早い事もあり、昨年・平年を上回っている。今後、梅雨入りし降雨日が増加する事から、薬剤散布については、細心の注意をはらって実施する。

◆当面する重点作業について

1. 仕上げ摘果が終了していない場合は作業を急ぐ。終了後、見直し摘果を進める。
2. 果実が大きくなり、枝が下垂してくるので早めに枝つり、支柱立てを実施する。
3. 徒長枝の整理(日焼け防止に数本残す)をし、薬剤が樹冠内部まで到達するよう心がける。
5. 土壌が乾燥するとカルシウム欠乏が発生しやすくなるため、かん水や葉面散布などの対策を実施する。
6. 腐らん病の発生が目立つ。被害枝の除去を徹底して行う。凍害のあった樹は特に感染に注意！！
7. 炭疽病・輪紋病・褐斑病等が感染する時期であり重要な防除になるので、丁寧に散布する。
8. スモモヒメシシクイ対策を徹底する。
9. カミキリムシ・ヒメボクトウガの捕殺に努める。

◆第8回薬剤散布について

1. 散布時期：6月24日（水）～28日（日）

実際散布月日	月	日
--------	---	---

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—	—
サムコルフロアブル	2,500倍	40mℓ	前日	シクイムシ類・キンモンホソガ・ギンモンハモグリガ
ナリアWDG	2,000倍	50g	前日	斑点落葉病・黒星病・輪紋病・炭そ病・すす病・すす点病・褐斑病

3. 散布上の留意事項

- 1) 降雨が多い場合は展着剤に代えて、固着性展着剤アビオンE1,500倍(水1000ℓに66mℓ)を使用してもよい。
- 2) ハダニ類の発生が多い場合は、アカリタッチ乳剤1,000倍を加用散布又は特別散布する。なお、展着剤は不要。※高温時並びに展着剤使用で薬害が発生するため注意する。

◆褐斑病対策特別薬剤散布について

1. 散布時期：6月下旬頃以降（第8・9回薬剤散布の中間頃）

実際散布月日	月	日
--------	---	---

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—	—
ユニックス顆粒水和剤	1,500倍	66g	14日	褐斑病

3. 散布上の留意事項

- 1) 昨年、褐斑病発生が多かった園で、降雨が多く発生が心配される場合は実施する。

◆品質向上・カルシウム欠乏対策について

品質向上やビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第8回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量1000当り

【品質向上対策】

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100ml
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g

+

【カルシウム欠乏対策】

資材名	使用倍率	調合量
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
ストピットⅡ	500倍	200g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

1. 使用時期：単用使用で月2～3回散布
（薬剤散布に混用する場合は、混用数が多くならないように注意する。）
2. 使用資材：調合量1000当り

資材名	使用倍率	調合量
リーフマグ	1,000倍	100g
グリーントップ	500倍	200g

◆ヒメボクトウガ対策について

近年、被害が増加してきている。特に中山間地は注意したい。

1. 症状

- 1) 数十匹の幼虫が樹幹内部を縦横無尽に激しく食害し、加害された樹は衰弱枯死する。
- 2) 幼虫は樹の中で2～3年かけて成長する。虫フンを出した穴が多数ある。
- 3) 蛹殻が半身を乗り出した格好で残されている。
- 4) 成虫は6月下旬から8月上旬に発生する

2. 対策

- 1) 食害が多い所は伐採する。
- 2) 通常防除でも被害場所によくかかるように散布する。また被害に遭っていない幹にも丁寧に散布し予防する。第8回薬剤防除で使用するサムコルフロアブルは、防除効果が高いため、主幹・主枝等にしっかりと薬剤を散布する。
- 3) スプレータイプの殺虫剤「ロビンフット」（収穫前日まで・年5回以内）を使用する。
虫フンを取り除いた所へノズルを差し込みながら噴射する。
薬液が逆流するまで（2～10秒）噴射する。
散布後苦しくなった幼虫が穴から出てくる（出できた幼虫も死にます）
幼虫が成長すると穴の長さが100cmにもなる場合があり、かかりにくくなるので食入初期に使用する。
カミキリムシへの効果もあるので合わせて実施する。

◆雑草対策について

ナミハダニの発生予防、作業効率を上げるために園地の除草(刈取り)を励行する。

1. 殺ダニ剤散布の3～5日前に草刈・除草剤により雑草を処理して、ハダニを樹上に上げてから散布する。殺ダニ剤散布後に、実施すると事後の発生が増加しやすいので注意する。
2. 除草剤使用の場合は、バスタ液剤またはザクサ液剤を使用する（収穫21日前まで、年3回以内）
 - 1) 草丈30cm以下なら10a当り、水100～150ℓにバスタ液剤またはザクサ液剤を500ml処理する。一般雑草は300倍（10ℓ当り33ml）で使用する。
 - 2) 草丈があまり長いと効果が落ちる。
 - 3) 多年生(宿根性)雑草には140倍（10ℓ当り75ml）で散布する。
 - 4) ワイ性樹などでは葉に飛散しないよう注意する。
 - 5) ヒコバエ等を刈り取り後の傷口が治っていないうちに除草剤を散布すると傷口からも入り薬害となるので注意する。
 - 6) カーメックス®Dを使用すると、一年生雑草の長期抑制効果がある。

◆シナノリップ・サンつがる・早生品種の鳥害対策について

1. 基本的には、防鳥ネットを張り、鳥害を防ぐ。
2. 鳥よけ爆音機やバードガードを使用する。
なお、使用する場合は周辺環境に留意する。特に住宅地付近での使用や早朝・夜遅くの使用はやめる。住宅地より200m以上離れた所で使用する。
3. 被害にあった果実を取り除く。

◆日焼け防止 白い寒冷紗の被覆について

1. 設置時期

- 1) 温度が高くなり日焼けが発生しそうになる6月下旬頃から。遅くなくても設置して日焼け被害の程度を軽減させる。

2. 設置のメリット（日焼け軽減の他に）

- 1) 葉摘み・玉回し作業の時間帯が広がる。 2) 鳥よけ効果がある。
- 3) 降雹場合に被害軽減できる。 4) 作業時が涼しい（新しい化栽培は日影が無い）

3. デメリット

- 1) 設置・撤去作業の手間。 2) ネットや支柱の費用がかかる。
- 3) 着色がやや遅れる。 4) 通常作業に邪魔になる。

4. 設置前の注意

- 1) トレリスや支柱の強度は十分あるか。
- 2) 樹との空間を空けて設置できるようになっているか（作業面・風通しなど）

5. 設置してからの注意

- 1) 台風や強風（風速20m以上）が吹く場合は、白寒冷紗を迅速に収納できるようにする。
- 2) 白寒冷紗だけでは日焼け防止は不十分。かん水も併せて行い温度を下げる。
- 3) 収穫中も設置し、8割程度収穫が終了したら取り外す。

◆新梢管理について

1. 主枝、亜主枝や側枝基部の徒長枝（新梢）

は全部欠き取るのではなく、30cmに1本位で千鳥に残す。

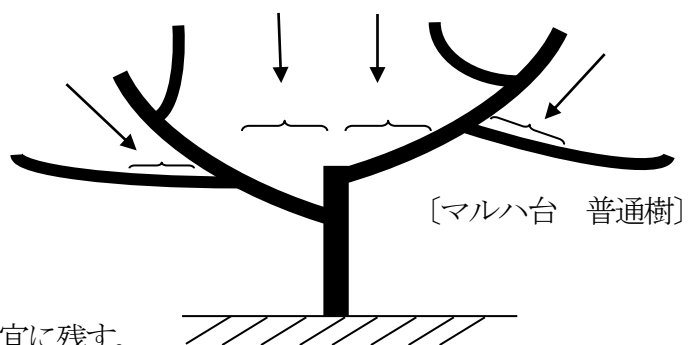
⇒ 計画的に切り（欠き）取る。

2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの時期切らずに無駄な養分を発散させる。お盆の頃に切り取る。

3. 殺ダニ剤散布に合わせ、徒長枝（新梢）の

処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。

4. 図の矢印部分（主枝・亜主枝の基部）の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



◆有袋ふじ袋かけについて

果実への病虫害発生防止の為、薬剤散布をしてから袋かけを行なう。

品種	被袋時期	摘要
ふじ	6月下旬～7月10日頃まで	一挙除袋用袋（有袋期間は85日位）

1. 被袋が早いと地色が抜けすぎてかえって着色が遅れる。

2. 作業が間に合っても早くかけ過ぎない